

1 山城管内における野生いのししの豚熱発生状況と対応について

山城家畜保健衛生所

○福田 奈穂 一星 暁美

5 【はじめに】2018年9月に岐阜県で発生した豚熱は、その後13県に感染が拡大、野生いのししの関与が疑われ京都府でも捕獲及び死亡いのししの豚熱検査を開始。2020年4月に管内の捕獲いのししが府内で初の豚熱陽性となり、現在も府内で感染は拡大。管内の野生いのししの豚熱感染状況及び対応の概要を報告。【感染確認状況】管内東中部で府内初の豚熱陽性確認後、南北の山沿いから西に感染が拡大。2021年4月末までに捕獲いのしし

10 134頭中17頭、死亡いのしし22頭中17頭、管内16市町村中10市町村で陽性個体を確認。京都市北部を除く管内すべての地域が感染確認区域に入る。【対応】隣接県での豚熱陽性いのししの確認を受けて2019年9月に市町村会議を実施。捕獲及び死亡いのししの取扱いについて協力を依頼し検査体制を構築。2021年4月末現在、管内の検査頭数は156頭で府内の約50%を占め、採材のための出動は延べ37回。2021年6月、12月管内において経口

15 ワクチンを散布。また、市町村に消毒資材を配布し陽性いのしし確認地点の消毒を協力依頼。【まとめ】今回管内16市町村の理解、協力を得て野生いのししの豚熱検査体制を円滑に構築。今後も豚熱発生予防のため関係機関と連携し、野生いのししの感染状況の把握に努める。